

「諸聖徒日、諸魂日を覚えて」

諸聖徒日は、有名無名を問わずすべての聖人、そして、天国で神のもとにいるすべての人を記念する日です。諸聖徒日(11月1日)と翌日の諸魂日(11月2日)はいわば日本でいえばお盆に相当する日です。日本ではお盆とお彼岸にお墓参りをする慣習がありますが、教会はこの時に墓参の祈りをする慣習があります。そして、諸聖徒日から始まる11月を死者の月として位置付けて過ごします。これは1年の教会暦の終わりの月にあたり、大変意義深いことだと思います。私たちの信仰は地上の生活の死で終わることなく天上の生活へと続いていくこと、そして神の国が完成する時にこの世界を完全に回復し、平和の王としてこの世に来られるイエス・キリストの再臨を待ち望むことを想起するのです。

ケセン語訳聖書を作られた山浦玄嗣(やまうら つぐはる)さんは、「心の貧しい人々は、幸いである。天の国はその人たちのものである。」(マタイ5:3)を

「頼りなく、望みなく、心細い人は幸せだ。神様の懐(ふところ)にしっかりと抱かれるのはその人たちだ」と訳されました。

すでに地上の生涯を終えられて方々は今神様の懐にしっかりと抱かれているのですよとイエス様は私たちに教えてくださっています。そして私たちもいつの日かその日が来たときには神様の懐にしっかりと抱かれて旅立つのです。

(司祭 越山哲也)